

授業科目 精神保健学演習	科目概要・形式 1単位30時間(15コマ) 演習科目	配当年次 博士前期1年次 後期開講	オンライン参加 可・ <input type="checkbox"/> 不可
科目責任者	大山 博史		
担当者	大山 博史、坂下 智恵		
1. 科目のねらい・目標 精神保健に関する諸問題のリスクや介入等について、課題を明らかにし、その研究方法を検討する。エビデンス・ベースト・プラクティスの立場から関連する国内外の学術文献に対する考察を行う。			
2. 授業計画・内容 次のテーマに沿って、毎回、英語学術論文を中心に議論する。 第1～2回 根拠に基づくメンタルヘルス：デザインについて 第3回 根拠に基づくメンタルヘルス：アウトカムについて 第4回 根拠に基づくメンタルヘルス：予防とモデル 第5回 地域におけるメンタルヘルスの課題 第6回 職域におけるメンタルヘルスの課題 第7回 学校におけるメンタルヘルスの課題 第8回 老年期におけるメンタルヘルスの実際 第9回 壮年期におけるメンタルヘルスの実際 第10回 青年期におけるメンタルヘルスの実際 第11回 乳幼児期・学童期におけるメンタルヘルスの実際 第12～13回 トピック①：自殺対策の基礎と実践 第14～15回 トピック②：現代のメンタルヘルスを考える なお、上記計画内容は受講生のニーズに応じて、適宜、変更することがある。			
3. 教科書、参考書 参考書 訳者 木原雅子他：「医学的研究のデザイン 第4版」、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2014年、ISBN 978-4-89592-783-3			
4. 成績評価方法 課題発表 70%、授業への参加度 30%により評価する。			
5. 受講要件 英語学術論文を読解できること。 論文に関して疫学的根拠に基づく批判的吟味が一定程度できることが望ましい。 保健・医療・福祉領域における臨床経験がある者が望ましい。 対面での授業を原則とする。			
6. 社会人学生に対する配慮 受講日時等、相談を受けます。			
7. その他			

受講生の関心のあるテーマを取り上げて授業を進める。受講生には関連する国内外の先行研究文献の提出を求める。